

2022年度 関東高校水球【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場

【2022/7/25】

3回戦

明大中野

10	[3	-	0
		3	-	2
		2	-	1
		2	-	2
		PSO		

5 埼玉栄

審判：

荻野 浩明

森下 正樹

この試合のプレー集計

明 大 中 野	27	SH数	17	埼 玉 栄
	7	速攻数	3	
	11	ST・SB	12	
	9	SH・P誘発アシスト	4	
	55%	GK阻止率	38%	
2	EX反則数	3		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

準々決勝の第1試合、この試合の勝者はインターハイ出場権を獲得する一戦。昨年度、全国大会出場が途絶えた埼玉栄としては、明大中野の壁を越えられるかどうか。

1P

埼玉栄のシュートミスに乗じて攻めの形を作り、左45° から②永野が決めて、明大中野が先制。その後は双方ともに決定的な場面が作れない状態が続いたが、埼玉栄の攻撃が手詰まりとなってオーバータイム。そこを起点に、明大中野が速攻を繰り出し、③濱口が決めて追加点。このパターンがその後も続くことになり、明大中野側のディフェンス力が埼玉栄の攻撃を完全に遮断する試合展開となった。特に、埼玉栄が得意とする速攻を出せない明大中野の攻撃の終わり方、センターにボールを入れる形などで余裕をもってディフェンス準備し、埼玉栄の攻撃時間の残り10秒あたりからのノーファイルプレスで時間を消費させる展開で主導権を握った。第1ピリオド、明大中野3-0埼玉栄という点差以上にチーム力の差が現れていた。

2P

埼玉栄のパスミスからの速攻を明大中野②永野が決めて4点差。その後、埼玉栄もゴール前でよく粘って、④阿部がトップ位置から決め(5:46)、さらに、⑤永井のボールスチールから⑩新村が退水を誘発して、自身で決めて2点を返して埼玉栄ペースかと思ったが(5:14)、またもや埼玉栄側のオーバータイムから明大中野⑤加納がセンター位置で退水を誘発して突き放した(3:20)。埼玉栄らしい展開水球に持ち込めないまま、明大中野6-2埼玉栄で前半を折り返した。

3P

このピリオドも、埼玉栄攻撃のオーバータイムを起点にして、明大中野⑤加納がセンターから豪快に決め(5:44)、さらにオーバータイム寸前の苦し紛れの埼玉栄SHから明大中野②永野が右サイドを突破してこの試合3点目をマークして突き放した(4:54)。埼玉栄は明大中野のシュートミスから③葛西が中央ドライブSHで返し、さらに明大中野のペナルティSHをGK①宇田川がファインセーブして気を吐いたが、明大中野8-3埼玉栄と5点差で第3ピリオド終了。

4P

埼玉栄は最後の粘りを見せて④阿部にボールを集めてシュートにまで至るが、点差は詰められず、最終的には明大中野10-5埼玉栄という5点差を保った形で明大中野が快勝し、全国大会出場権を手にした。

埼玉栄らしい攻撃が見られなかったが、それだけ明大中野のディフェンス、それを引き出す自チーム攻撃の終わり方に大きな違いがあったわけで、他の高校生チームにとっても模範となるような試合運びを見せた。全国大会でも上位進出は間違いなさそうな明大中野であった。